

40代、異業種からの転身

「キャリア積み正社員に」

介護職には異業種から転身し、40代、50代で資格を取る人も少なくない。若い頃はパートの仕事も多いが、ある年齢にさしかかると、仕事が思うように入らなくなることも。正社員で長く働ける魅力にひかれ、介護職になった女性に話を聞いた。

ダー、吉岡美香さん(48)は、介護資格取得のために通った講座の講師の言葉を仕事の糧にしている。「今日会った入居者さんは、明日にはいないかもしれない。だから、声をかけられたとき、『明日ね』って言ったらだめなんだよ」

年齢は関係ない
吉岡さんは高校卒業後、まもなく結婚。3人の子供に恵まれた。パートで働くことが多く、30代半ばからはJR駅構内の菓子店で販売員を勤めていた。やりがいを感じていたが、会社の方針で勤務日数が減り、思うようにシフトに入れないことも。40歳を迎える頃には「キャリアを積みたい、正社員として働きたい」と考えるようになっていた。

「アズハイム中浦和」(さいたま市桜区)のケアリー

そんなときに介護の仕事に出合った。寝たきりの義母宅で介護職の仕事ぶりに

初めて介護業界に飛び込んだのは6年前だった。「アズハイム中浦和」でパートとして働き始めた。

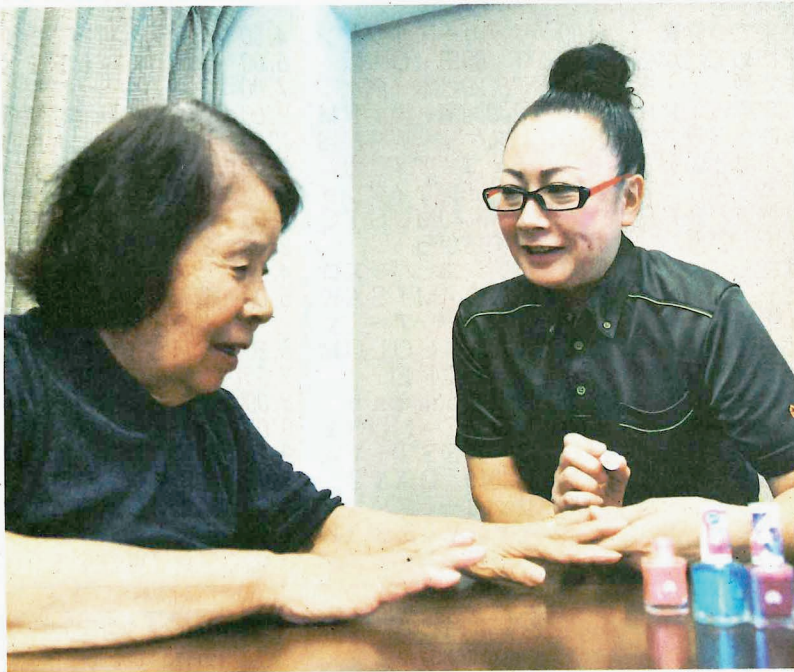
楽しくなる工夫

感銘を受けたのだ。「長く働ける」「年齢は関係ない」というイメージも背中を押した。41歳で介護の基本的な資格「介護職員初任者研修」を取得した。

「こんにちは、と声をかけても、その後、どう会話をつなげていいか分からなかった」と当時を振り返る。だが、もともと人に喜んでもらうのが好き。施設内で手芸サークルを作ったり、入居者にマニキュアを塗り直したり。入居者の気分が上がる工夫を取り入れる楽しさがあった。

その結果、一緒に外出できるほど心を開いてくれた。「働きかけで相手も変わる。気にかけていると伝わると、心が開くのかな」(吉岡さん)

3年ほど前には、介護の上級資格にあたる「介護福祉士」を取得。今は正社員だ。40代でのキャリアアップ。30代で「勇気が必要だったけれど、まずは1カ月、次は3カ月を目標にしました」。



Ⓜ入居者にマニキュアを施す吉岡美香さん(右)
Ⓨ入居者の作品を飾るのも大事な仕事だ
—さいたま市(いずれも三尾郁恵撮影)

入居者にはいろいろな人がいる。ある60代の女性は当初は心を閉ざしていた。根気よく声をかけていると、あるとき、「昔の写真なんだけど…」と写真を見せてくれた。女性がアパレル業界で働いていた時代の1枚。きっと、人生で一番輝いていたときのものだ。何度も同じ写真を見せら

た。その結果、一緒に外出できるほど心を開いてくれた。「働きかけで相手も変わる。気にかけていると伝わると、心が開くのかな」(吉岡さん)

～から
CARA CARA
https://www.cara2.jp

「まちから」「ひとから」「しごとから」。助けの必要な人に寄り添う。ケアするウェブマガジン「～から」。

